

資料 7 - 1 - ③ - 9 続き

教科目名: **工業英語** ( **Technical English** )

担当教員: 南 淳

学年・学科/専攻名: 4 年 物質工学科

単位数・授業時間: 必修 1 単位 通年 週 ( 前期 1 ) ( 後期 1 ) 時間 ( 合計 30 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( F ) ( ) ( )

## 授業の概要

Technical English はエンジニアにとって必須のスキルである。1 月工業英検 3 級を受験するが、これに合格することを目標とする。工業英検 3 級問題集を用いて問題演習を行い、文法事項や工業英語の特色について学ぶ。並行して、オリジナル教材を用いた学習により語彙力を強化する。後期はテクニカルライティングの演習を中心にする。

関連科目: 英語、工業英語 (5 年次)、外国語雑誌会

	授業内容	(W)	達成目標
前	問題演習	(4)	過去分詞、現在分詞、関係詞、動名詞、不定詞を用いた構文について読解することができる。 科学技術の各分野の最重要単語・表現をおおよそ知っている。
	工業英語に必要な文法事項	(4)	

(出典: 平成25年度シラバス, p. E-23, p. E-34, p. B-7, p. B-29)

## 国際交流支援室規程（抜粋）

鶴岡工業高等専門学校国際交流支援室規程

制 定 平成 21 年 12 月 2 日

最終改正 平成 24 年 2 月 29 日

(趣旨)

第 1 条 この規程は、鶴岡工業高等専門学校内部組織規程第 7 条第 2 項及び第 8 条第 4 項の規定に基づき、鶴岡工業高等専門学校国際交流支援室（以下「支援室」という。）の業務及び組織等について必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第 2 条 支援室は、学生及び教職員の国際交流の推進に関する具体的な業務を行うことを目的とする。

(支援室の業務)

第 3 条 支援室は、次に掲げる業務を行う。

- 一 学生及び教職員の国際交流の推進に関すること。
- 二 海外の大学等の国際交流協定に関すること。
- 三 学生及び教職員の海外の協定校への派遣に関すること。
- 四 学生及び教職員の海外の協定校からの受入れに関すること。
- 五 外国人留学生（以下「留学生」という。）の教育指導に関すること。
- 六 留学生の生活指導等に関すること。
- 七 外国人研究員の受け入れに関すること。
- 八 その他国際交流の推進に関すること。

(組織)

第 4 条 支援室に次に掲げる室員を置く。

- 一 室長
  - 二 室長補佐
  - 三 教員系支援室員（海外の協定校担当）2 名
  - 四 教員系支援室員（学科及び専攻科担当）6 名
  - 五 事務系支援室員
  - 六 必要により校長が指名する者 若干名
- 2 支援室の管理運営は、校長の命を受け、室長が行う。
- 3 室長補佐は、学生課課長補佐をもって充て、室長の職務を補佐するとともに、室長に事故あるときは、その職務を代行するものとする。
- 4 第 1 項第三号の室員は、総合科学科の英語を担当する教員の中から学科推薦に基づき、校長が指名する。
- 5 第 1 項第四号の室員は、専門学科から推薦された教員各 1 名と、教務主事補及び寮務主事補の中から選出された教員各 1 名について、校長が指名する。
- 6 第 1 項第五号の室員は、事務部職員の中から校長が指名する。
- 7 第 1 項第三号から第六号までに掲げる職員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第 5 条 支援室に、第 3 条に掲げる業務に関し、必要な事項を審議するため、国際交流支

## 国際交流支援室

設置：平成21年9月15日

主な業務： 1. 学生・教職員の国際交流推進  
2. 海外大学等の国際交流協定  
3. 協定校との派遣・受入

国際交流： リールA技術短期大学（フランス共和国）  
レッドロックスコミュニティカレッジ（アメリカ合衆国）  
キングモンクット工科大学ラカバン校（タイ）  
ポリテクニク5校（シンガポール）  
トゥルク応用科学大学・ヘルシンキメトロポリア応用科学大学

海外提携校との学生交流実施内容

21年度（3月）

- I リールA技術短期大学（フランス共和国）
- 1 派遣学生数 専攻科生2名，約1か月 応募3名
  - 2 受入学生数 1名，3か月
- II レッドロックスコミュニティカレッジ（アメリカ合衆国）
- 1 派遣学生数 本科生10名，約2週間 応募17名

22年度（3月）

- I カレー・ブローニュ技術短期大学（フランス共和国）
- 1 派遣学生数 専攻科生2名，約1か月 3名応募
- II レッドロックスコミュニティカレッジ（アメリカ合衆国）
- ◎ 派遣 8名を予定していたが、東北地方太平洋沖地震で延期  
(8月と24年3月に延期)

23年度

- 8月に4名レッドロックス留学  
3月に12名レッドロックス留学  
1名リール留学  
1名トゥルク留学
- 応募者 16名

(出典：国際交流支援室資料)

資料7-1-③-12

## 国際交流 派遣実績

## 鶴岡高専 国際交流、派遣・受け入れ実績

## 2011(平成23)年度

派遣	国名	学校	クラス	名前	期間
	アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	4I		
アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	4I			2011/.8/2~8/15
アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	4B			2011/.8/2~8/15
アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	4B			2011/.8/2~8/15
アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	3M			2012/3/9~3/24
アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	3E			2012/3/9~3/24
アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	3E			2012/3/9~3/24
アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	3I			2012/3/9~3/24
アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	3I			2012/3/9~3/24
アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	3B			2012/3/9~3/24
アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	4M			2012/3/9~3/24
アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	4M			2012/3/9~3/24
アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	4M			2012/3/9~3/24
アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	4E			2012/3/9~3/24
アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	4B			2012/3/9~3/24
アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	5M			2012/3/9~3/24
フランス	リールA技術短大	5B			2012/3/1~3/31

17名

受け入れ なし

## 2012(平成24)年度

派遣	国名	学校	クラス	名前	期間
	フィンランド	トゥルク応用科学大学	2ME		
タイ	ISTS2012参加	2CB			2012/11/21~11/24
タイ	ISTS2012参加	2ME			2012/11/21~11/24
タイ	ISTS2012参加	2CB			2012/11/21~11/24
タイ	ISTS2012参加	1CB			2012/11/21~11/24
タイ	ISTS2012参加	5I			2012/11/21~11/24
タイ	ISTS2012参加	5I			2012/11/21~11/24
タイ	ISTS2012参加	5E			2012/11/21~11/24
アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	4I			2013/3/7~3/22
アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	4I			2013/3/7~3/22
アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	4I			2013/3/7~3/22
アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	3I			2013/3/7~3/22
アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	3I			2013/3/7~3/22
アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	3I			2013/3/7~3/22
アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	3I			2013/3/7~3/22
アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	3B			2013/3/7~3/22
アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	3B			2013/3/7~3/22
アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	3B			2013/3/7~3/22
アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	3E			2013/3/7~3/22
シンガポール	リバプリック・ポリテクニク	4B			2013/3/9~3/17
シンガポール	リバプリック・ポリテクニク	4B			2013/3/9~3/17
シンガポール	リバプリック・ポリテクニク	4B			2013/3/9~3/17
シンガポール	リバプリック・ポリテクニク	3B			2013/3/9~3/17
シンガポール	リバプリック・ポリテクニク	3B			2013/3/9~3/17
シンガポール	リバプリック・ポリテクニク	3B			2013/3/9~3/17
シンガポール	リバプリック・ポリテクニク	3I			2013/3/9~3/17
シンガポール	リバプリック・ポリテクニク	3I			2013/3/9~3/17

27名

(出典：国際交流支援室資料)

(分析結果とその根拠理由)

学生からのニーズは、教育改善アンケート結果、授業アンケートの自由記述欄、将来構想・戦略会議委員と学生の意見交換会、本校ウェブページの意見箱で確認できる。

授業の中でTOEIC対策への支援を十分に行っている。その他の資格試験についても、授業の中で対策を行っている。国際交流支援室が中心となり学生の国際交流を奨励している。

以上のことから、学生のニーズを適切に把握し、それを支援する体制が整備され、機能している。

**観点7-1-④： 特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援体制が整備されているか。また、必要に応じて学習支援が行われているか。**

(観点に係る状況)

留学生への支援については、国際交流支援室が中心になり、留学生への学習・生活支援を行っている(資料7-1-③-10参照、資料7-1-④-1)。3年次編入当初の留学生対象の授業開講(資料7-1-④-2)、留学生各人へのチューター配置(資料7-1-④-3)、また、休日を利用した特別補講(資料7-1-④-4)等、留学生のニーズに合わせた支援も行っている。

4年次編入学生には、編入学試験合格から入学までに勉強しておくべきことを、書面にて指導している(資料7-1-④-5)。入学後は、必要に応じて特別指導を行っている(資料7-1-④-6)。

障がいがあり、学習に支障がある学生に対しては、学生支援センターが支援している(資料7-1-④-7)。相談室員が各学科のクラス担任、学年主任、学科長と恒常的に連絡を取り合い、対応している(資料7-1-④-8～9)。

## 外国人留学生支援業務の役割分担

外国人留学生支援体制および役割分担について		国際交流支援室
<p>1. 支援体制</p> <p>本校外国人留学生の「学習」および「生活」における支援については</p> <p>(1) 担任教員および指導教員</p> <p>(2) 国際交流支援室(下記4名)</p> <p>支援室長, 留学生担当教務主事補(以下, 教務主事補), 留学生担当寮務主事補(以下, 寮務主事補), コーディネーター</p> <p>(3) チューター学生</p> <p>が中心となっておこない, 必要に応じて留学生所属学科教職員, 教務係および学寮関係者(寮監・寮務係)が補佐するものとする。</p>		
<p>2. 役割分担</p> <p>2-1. 新規留学生来校時(3月下旬~4月上旬)</p>		
項目	担当	備考
外国人登録・銀行口座開設等 各種手続きの引率・付き添い	担任教員。 必要に応じて教務主事補および留学生担当教務係員が支援する。	公共交通機関を利用できない場合は公用車を使用
学校案内, 学科紹介および カリキュラム説明等	担任教員。 必要に応じて所属学科の学科長または教職員が支援する。	
日常生活の準備	担任教員。 必要に応じて教務主事補, 寮務主事補および学寮関係者が支援する。	入寮しない場合は学寮関係者に代わり教務係が支援する。
<p>2-2. 日常支援および関連業務</p>		
項目	担当	備考
学習支援・日常生活サポート	担任教員, 指導教員およびチューター 必要に応じて教務主事補, 寮務主事補, 所属学科教職員および学寮関係者が支援する。	入寮しない場合は学寮関係者に代わり教務係が支援する。
各種手続きの引率・付き添い (必要な場合)	担任教員, 指導教員およびチューター 必要に応じて教務主事補, 寮務主事補および留学生担当教務係員が支援する。	公共交通機関を利用できない場合は公用車を使用
留学生交流会・留学生校外研修	教務主事補 必要に応じて寮務主事補および留学生担当教務係員が支援する。	
東北地区高専留学生交流会引率	教務主事補または寮務主事補 必要に応じて支援室長または留学生担当教務係員が代行する。	開催時期未定 複数回/年の場合あり
次年度編入学国費留学生との面会 (於:東京日本語教育センター)	教務主事補または寮務主事補 必要に応じて担任予定者または支援室長が代行する。	1月末~2月上旬
留学生担当教職員等を対象とした 研修会および交流会等	時期・内容によって支援室長が参加の有無および参加者を決定する。	
チューターのオリエンテーション	教務主事補および寮務主事補 必要に応じて留学生担当教務係員が支援する。	チューター任命式後 実施
上記各項目の連絡・調整・窓口	留学生担当教務係員 必要に応じて他の教務係員が代行する。	

(出典: 学生課資料)

資料 7-1-④-2

## 日本語、日本事情のシラバス (抜粋)

教科目名: **日本語 I** ( Japanese I )

担当教員: 長谷川 佐知子

学年・学科/専攻名: 3 年 留学生

単位数・授業時間: 必修 2 単位 通年 週 ( 前期 2 ) ( 後期 2 ) 時間 ( 合計 60 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( F ) ( ) ( )

## 授業の概要

国語関係留学生振替授業である。国籍や日本語能力が異なる少人数の授業なので、各人の状況に応じて、実生活で使え、日本人とコミュニケーションできる日本語を習得する。

関連科目:

教科目名: **日本語 II** ( Japanese II )

担当教員: 富 樫 恵

学年・学科/専攻名: 3 年 留学生

単位数・授業時間: 必修 2 単位 通年 週 ( 前期 2 ) ( 後期 2 ) 時間 ( 合計 60 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( F ) ( ) ( )

## 授業の概要

国語関係留学生振替授業 II である。国籍や日本語能力の異なる 3~4 人の授業なので、「日本語 I」をふまえ、自分の意見や感想を「話し言葉の日本語」で表現する能力を身につけさせる。

関連科目:

教科目名: **日本事情** ( Japanese Affairs )

担当教員: 澤 祥・山田充昭

学年・学科/専攻名: 3 年 留学生

単位数・授業時間: 必修 2 単位 通年 週 ( 前期 2 ) ( 後期 2 ) 時間 ( 合計 60 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( F ) ( ) ( )

## 授業の概要

日本での留学生生活を円滑に進めさせるために、日本の社会や歴史を概観しながら日本特有の思考や習慣を紹介する。日常生活に活用できるような身近な話題を取り上げ、日本語会話上達のために、留学生の発言と作文を活発に行わせる。

関連科目: 日本語 I、日本語 II

(出典: 平成25年度シラバス, pp. G-37~G-39)

チューターの配置

平成25年度 外国人留学生名簿

平成25年4月1日現在

学年	所属学科・担任等	留学生氏名	呼び名	性別	生年月日	国籍	チューター氏名
5年	機械工学科 担任教員 矢吹 益久	[Redacted]	[Redacted]	男	1990.4.25	マレーシア	
				男	1991.8.31	マレーシア	
				男	1991.5.7	マレーシア	
	電気電子工学科 担任教員 森谷 克彦 制御情報工学科 担任教員 安齋 弘樹 物質工学科 担任教員 瀬川 透			男	1991.2.25	マレーシア	
				男	1990.4.28	モンゴル	
				男	1992.7.28	インドネシア	
4年	機械工学科 担任教員 五十嵐 幸徳 電気電子工学科 担任教員 内山 深	[Redacted]	[Redacted]	男	1992.1.3	マレーシア	[Redacted]
				男	1992.3.30	モンゴル	
				3年	機械工学科 担任教員 田中 浩 物質工学科 担任教員 佐藤 司	男	
男	1993.10.13					マレーシア	
女	1992.5.6					ラオス	

\* 国費留学生: 4名(男子3名、女子1名)

\*留学生住所:

【モンゴル(2)、インドネシア(1)、ラオス(1)】

〒997-8511 山形県鶴岡市井岡字沢田104 鶴鳴寮

\* マレーシア政府派遣留学生: 7名(男子7名)

\*在留資格: 留学

※一番上に記された留学生は5年生なので、チューターは配置しない。

(出典: 学生課資料)

資料7-1-④-4

外国人留学生特別補講（例）

平成 24 年 4 月 24 日

外国人留学生特別補講 実施報告書

国際交流支援室長 内 山 潔 殿

外国人留学生特別補講講師 齋 藤 み ゑ



外国人留学生特別補講については、下記のとおり実施しましたので、ご報告いたします。

実 施 日	実 施 内 容	出 席 者
平成24年4月21日	日本語学習 自己紹介の作文指導	<div style="background-color: black; width: 50px; height: 20px; display: inline-block;"></div> 出席  <div style="background-color: black; width: 50px; height: 20px; display: inline-block;"></div> (体調不良で欠)

上記の内容について、確認しました。

平成 年 月 日

(実施責任者)

国際交流支援室長 内 山 潔



(出典：学生課資料)

## 編入学前の指導例

25 年度編入生の皆さんへ

平成 25 年 1 月 9 日

鶴岡高専英語科

## 編入までの勉強の案内(英語)

この度は、鶴岡高専への編入学試験合格おめでとうございます。

本校は、専門科目や数学などの理数系の一般科目に加えて、「英語」も最重要科目の一つに位置づけられています。そこで、編入学の事前学習としてやっておいた方がよいことを、以下にお知らせします。

まず、これまでならった単語をもう一度覚え直す必要があります。習ったものをすべて覚え直すのは無理かもしれませんが、高校 3 年間に勉強した単語の 6 割(それが無理なら少なくとも 5 割)くらいはしっかりと覚え直し、知識として定着させる必要があると思います。単語を地道に覚えるのは、面倒に思えるかもしれませんが、英語の勉強では基本中の基本です。

次に、これまでならった文法をもう一度しっかりと復習しておく必要があります。特に大切だと思われる文法項目は、次の通りです。

- ① 品詞(名詞、動詞、形容詞、副詞、前置詞)の区別
- ② 主語、述語動詞、補語、目的語、修飾語の区別
- ③ 現在形、現在進行形、過去形、過去進行形、未来形、現在完了形、過去完了形の基本形式と意味
- ④ 受動態の基本形式と意味
- ⑤ 不定詞の基本形式と意味
- ⑥ 動名詞の基本形式と意味
- ⑦ 現在分詞、過去分詞の基本的な意味と用法
- ⑧ 関係代名詞、**who, whose, whom, which, that** の使い方
- ⑨ 関係副詞 **when, where, how** の使い方

これら以外にも、高校で習う文法項目は多くあることは確かですが、あえて言えばこ九つが特に大切だと思います。すでに持っている文法参考書を読み、自分で分かるところだけでも理解するよう努力してみてください。なお、本校では、『総合英語 **Forest** (桐原書店)』という文法参考書を(1 年次にはありませんが)学生全員に買わせています。もし、手持ちも文法参考書が分かりづらいようでしたら、これを買って読んでみてください。

本校 4 年生は全員に TOEIC の受験が義務づけられていることもあり、授業は TOEIC 対策中心となります。TOEIC とは **Test of English for International Communication** の略で、国際的規模で実施されているテストです。これが具体的にどのようなテストか、(この紙面には書き切れませんので)入学前にあらかじめ知っておいた方がよいと思います。書店に行けば、今や TOEIC 対策の本はあふれるほど種類が豊富です。薄く安価なもので構わないので、1 冊購入し、少しでも目を通しておくことを是非おすすめします。

資料 7 - 1 - ④ - 6

## 編入学後の指導例

平成 2 5 年 4 月

## 平成 2 5 年度編入学生に対する特別指導について

物質工学科長 瀬川 透

平成 2 5 年度の編入学生に対して下記の通り特別指導を行う。

実施科目	実施教員名	実施時間帯	備 考
応用数学	上松 和宏	放課後	毎週1回の補習
応用物理	吉木 宏之	放課後	オフィスアワー対応
無機化学	栗野 幸雄	放課後	毎週1回の補習
化学工学	清野 恵一	放課後	毎週1回の補習
物理化学	各 担 任	適 宜	適 宜

## 指導例 1

平成 2 5 年 4 月

## 平成 2 5 年度編入学生に対する特別指導について

電気・電子工学科長 佐藤 秀昭

平成 2 5 年度の編入学生に対して下記の通り特別指導を行う。

実施科目	実施教員名	実施時間帯	備 考
電気磁気学	保科紳一郎	放課後	4回程度の補習
電気回路	佐藤 秀昭	放課後	3年次履修内容の確認

## 指導例 2

(出典：学生課資料)

## 学生支援センター規程（抜粋）

## 鶴岡工業高等専門学校学生支援センター規程

制 定 平成 24 年 2 月 29 日

## （趣旨）

第 1 条 この規程は、鶴岡工業高等専門学校内部組織規程第 7 条第 2 項及び第 8 条第 4 項に基づき、鶴岡工業高等専門学校学生支援センター（以下「センター」という。）の組織及び運営等に関し必要な事項を定める。

## （目的）

第 2 条 センターは、学生に対する修学、生活、進路選択等の支援業務を総合的に行い、併せて教職員の健康管理についての支援を行うことで、本校の日常的な教育研究活動の円滑な実施に資することを目的とする。

## （業務）

第 3 条 センターは、次の各号に掲げる事項の支援業務を行う。

- 一 学生の修学に関すること。（特別教育支援を含む）
- 二 学生生活に関すること。
- 三 学生のキャリア教育に関すること。
- 四 学生及び教職員の心身の健康に関すること。
- 五 その他第 2 条に掲げる目的を達成するために必要な業務。

## （組織）

第 4 条 センターに、業務遂行のための組織として次の室を置く。

- 一 相談室
- 二 キャリア支援室
- 三 保健室

2 それぞれの室に関し、必要な事項は別に定める。

## （センター職員）

第 5 条 センターに次に掲げる職員を置く。

- 一 センター長
- 二 副センター長
- 三 前条第 1 項各号に掲げる各室の長
- 四 学校医（内科医）及び産業医
- 五 その他校長が指名した者

## （管理運営）

第 6 条 センターの管理運営は、校長の命を受け、センター長が行う。

2 副センター長は、センター長の職務を補佐するとともに、センター長に事故あるときにはその職務を代行する。

## （任期）

第 7 条 第 5 条第 1 項第 5 号に掲げる職員の任期は、2 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

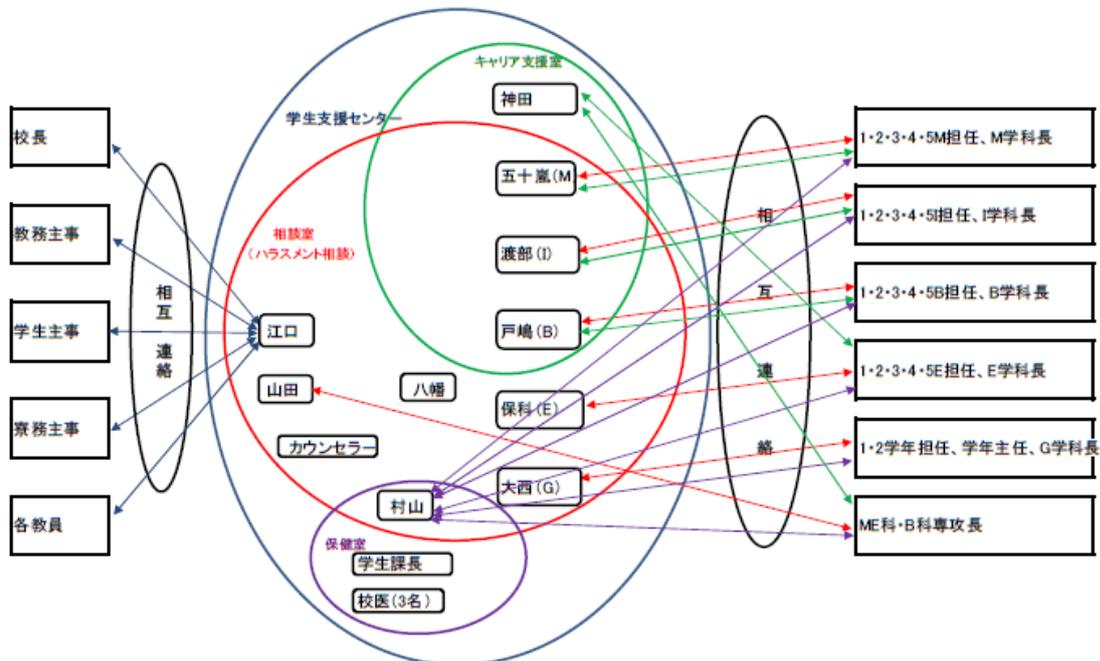
## （会議）

第 8 条 センターに、第 3 条に掲げる業務に関し、必要な事項を審議するため、学生支援センター会議（以下「会議」という。）を置く。

学生支援センター組織図

2013年度学生支援センター組織図

学生支援センター : 江口(センター長)・山田(副)・神田(キャリア)・学生課長(保健室)・大西(G)・五十嵐(M)・保科(E)・渡部(I)・戸嶋(B)  
 八幡(寮監)・村山(看護師)・学校医・学校歯科医・産業医・カウンセラー 15名  
 相談室(ハラスメント相談業務) : 江口(室長)・山田(副)・大西(G)・五十嵐(M)・保科(E)・渡部(I)・戸嶋(B)・八幡(寮監)・村山(看護師)・カウンセラー 10名  
 キャリア支援室 : 神田(室長)・センター員3名(五十嵐・渡部・戸嶋) 4名  
 保健室 : 学生課長(室長)・村山(看護師)・学校医・学校歯科医・産業医 5名



- ※ 活動概要
- 相談室員は各学科のクラス担任、学年主任、学科長と恒常的に連絡を取り、学生の学業・学校生活・寮生活等の様子を把握し、相談室会議で報告する。
  - センター長は、恒常的に校長・主事等と連絡を取り、学生の学業・学校生活・寮生活全般の様子を把握し、相談室会議で報告する。
  - 相談室会議は月一度開催(臨時会議開催もあり)。要支援の学生・教員が存在するか否か、存在する場合は支援のあり方を検討する。
  - 特別支援グループ結成の必要がある場合、センター長はクラス担任等の意向聴取しながら、構成メンバーを決定し、当該教員に支援担当を要請する。
  - 学生への支援等が円滑に遂行されるよう、センター長は校長・主事等と協議を行う。
  - キャリア支援室長・室員は、キャリア教育を計画・実施する。
  - キャリア支援室長・室員は、各学科の就職活動や編入学受検状況を把握し、支援を要する学生が存在する場合はこれに対応する。
- ※ 当面の課題
- 発達障がいや精神疾患について専門知識を持つ教職員の補充(急售! 本校には素人しかいない!)
  - 独立財源の確保 → 講師招聘、アンケート調査等の実施・分析、必要物品調達、講習・研修会等への出張
  - 外部機関との連携
    - 各種医療機関、庄内児童相談所、山形県発達障がい者支援センター、山形県教育センター、庄内障害者就業・生活支援センター、他
  - カウンセリング体制強化 → カウンセラーの増員や対応時間の増加。精神科あるいは心療科の学校医を準備
  - 本校学生支援体制のガイドラインを学内外に明示 → 冊子や学校HPで…(できることと、できないことを明確化)、学校紹介等でも活用できる方針を策定
  - 悩みを持つ学生を早期に把握 → 各種アンケート等の実施、相談室利用の有効性をアピール、全教職員との連携
  - 教職員の啓発(講演等の実施) → カウンセリングマインドを涵養、学生支援に対する理解を定着、ハラスメント防止意識を向上、教職員自身の相談室利用促進
  - キャリア支援室とCO-OP教育推進室の連携、相互関連の明確化
  - 就職意識調査、就職先満足度調査、短期での自主退職者数把握 → キャリア教育のあり方へ反映
  - 進路変更者の実態調査 → 進路変更を希望する者、またそれを余儀なくされる者への指導へ反映

# 相談室ってどんなところ？

H25年4月発行 学生支援センター 相談室

一人ひとりが充実した学生生活を送るためにサポートするところです。

- ◎ どんな話でも聞いてくれます。
- ◎ 専門のカウンセラーと相談員がいます。
- ◎ 一人で悩んでいないで、いつでも相談に来てください。
- ◎ もちろん、話の内容については秘密を守ります。

## たとえばこんな事・・・話してみませんか？

- ◎ 学習のこと（授業・成績など）
- ◎ 進路のこと（就職・進学など将来のこと）
- ◎ 学校生活のこと（友人関係・部活動のこと）
- ◎ 精神衛生上のこと（やる気がわかないなど）
- ◎ セクシャルハラスメント・アカデミーハラスメント
- ◎ その他、個人的な問題 などなど・・・



## いつ、どこに行けばいいの？

.....相談室は保健室の隣です.....

- ◎ 相談員との相談は、随時それぞれの教員室・事務室へ
- ◎ 看護師との相談は、随時保健室へ
- ◎ スクールカウンセラーとの相談は、学生相談室へ（予約が必要です）
- ◎ 誰に相談すればいいか迷ったときは、保健室で確認してください。

相談の申込、予約は保健室まで。電話、メールでもOKです。

電話 (0235) 25-9030 (保健室) 平日 8:30~17:00  
メール soudan@tsuruoka-nct.ac.jp



## 私たちが相談室員です！

**スクールカウンセラー (遠慮心優れ)**  
加藤 早苗  
毎週水曜日 15:30~17:30

**相談室長**  
電気電子工学科  
江口 李三郎  
eguchi@tsuruoka-nct.ac.jp

**副相談室長**  
総合科学科  
山田 充昭  
yamada@tsuruoka-nct.ac.jp

**相談室員**  
総合科学科  
大西 宏昌  
hoishi@tsuruoka-nct.ac.jp

**相談室員**  
機械工学科  
五十嵐 幸徳  
yika@tsuruoka-nct.ac.jp

**相談室員**  
電気電子工学科  
保科 紳一郎  
hoehina@tsuruoka-nct.ac.jp

**相談室員**  
新幹情報工学科  
渡部 誠二  
watanabe@tsuruoka-nct.ac.jp

**相談室員**  
物質工学科  
戸崎 茂郎  
Shigeru@tsuruoka-nct.ac.jp

**相談室員**  
音楽  
八幡 喜代志  
yawata@tsuruoka-nct.ac.jp

**相談室口 書記**  
村山 智子  
muryama@tsuruoka-nct.ac.jp

(出典：学生課資料)

## 学生支援センター対応事例

## 平成 24 年度 第 3 回相談室会議議事録

日時 平成 24 年 5 月 21 日 (月) 16:00～

場所 小会議室

出席 山田充昭 五十嵐幸徳、武市、渡部、村山、神田、鈴木補佐、XXXXXXXXXX (XXXXXX 担任)、白野、

欠席 長谷川、戸嶋、比留間

議題 学生の支援について

1. XXXXXXXXXX 君の支援について

状況が担任の XXXXXX 先生より説明があり、また支援に関する要望も出される。

状況：2012 年 1 月、体育の時間に網膜剥離の怪我を負い、その後二度の手術を伴う入院で長期欠席する。5 月 7 日よりようやく学校に復帰。学習と生活上の不安あり。長期に学校を離れていたため、学校生活における疲労の蓄積あり。過度の疲労を感じたら、保健室か寮で休むように指示している。

支援要望：長期欠席による遅れを取り戻すため、①特に次の教科について、補習や課題提供等の学習支援対象科目として要請したい。数学・物理・電気磁気学・電気回路・電気実験実習（数学・物理は担任から授業担当教員にお願いし、対応していただいている。よって専門の 3 科目をお願いしたい）②今後の検査通院や疲労等で欠席が増えると出席時間数の不足も考えられるので、これへの配慮もいただきたい。上記支援は本人・保護者とも望んでいる。

討議：専門 3 科目の担当教員に対して、相談室長から教務主事と連名で授業支援を願う。前期中間で成績が合格ラインをクリアできればよい。出来ないときは前期末をメドに支援し、夏休みには課題等与えて指導して前期末の結果で判断する。

XXXXXX 科の学科長にも同席してもらって話をした方がよい。

欠席が 1/3 をオーバーする可能性があるかも知れないが、保健室登校を出席扱いにする、補講を受けたらその部分の時間数を出席にするなどの配慮は必要で教務委員会で討議してもらう。

補講等実施したら、担当教員より個々に報告書を提出してもらう。

2. 学生支援の基準・方針

今回の XXXXXX の学生が支援の最初になるが、支援基準・方針・手続きを決めたい。

支援目標：低学年（前向きに進級させる方向で行う。3 年生で高卒の資格取得と、進路変更も考慮して進路指導。）高学年（自立へ向けて支援。卒業生への質の保障は崩せない。支援しても留年は有りうることを支援学生・保護者にも周知させる）

支援対象者：医療機関発行の証明書を有する者。カウンセラーからアドバイスのある者。保護者や本人が特別な理由で支援を希望する者）

支援対象学生を教員会議で全教員（あるいは授業担当の教員全員）に周知する。守秘義務を守る。教員向け講習会を開く。

(出典：学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

国際交流支援室が中心となって留学生への学習支援を行っている。また、留学生のための授業を開講し、チューターを配置して、日常生活や学習等に対するサポート体制をとっている。編入学生に対しては、入学前、入学後に学習支援を行っている。障がいのある学生に対しては学生支援センターが支援を行っている。

以上により、特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援体制が整備されている。

**観点7-1-⑤： 学生の部活動，サークル活動，自治会活動等の課外活動に対する支援体制が整備され，適切な責任体制の下に機能しているか。**

(観点到に係る状況)

部活動の支援は、学生主事を中心に共通の目標、取り決めのもとで行っている(資料7-1-⑤-1～2)。顧問会議開催、複数顧問の配置、学外コーチの配置、非常勤教員招聘制度等の体制を整備している(資料7-1-⑤-3～6)。

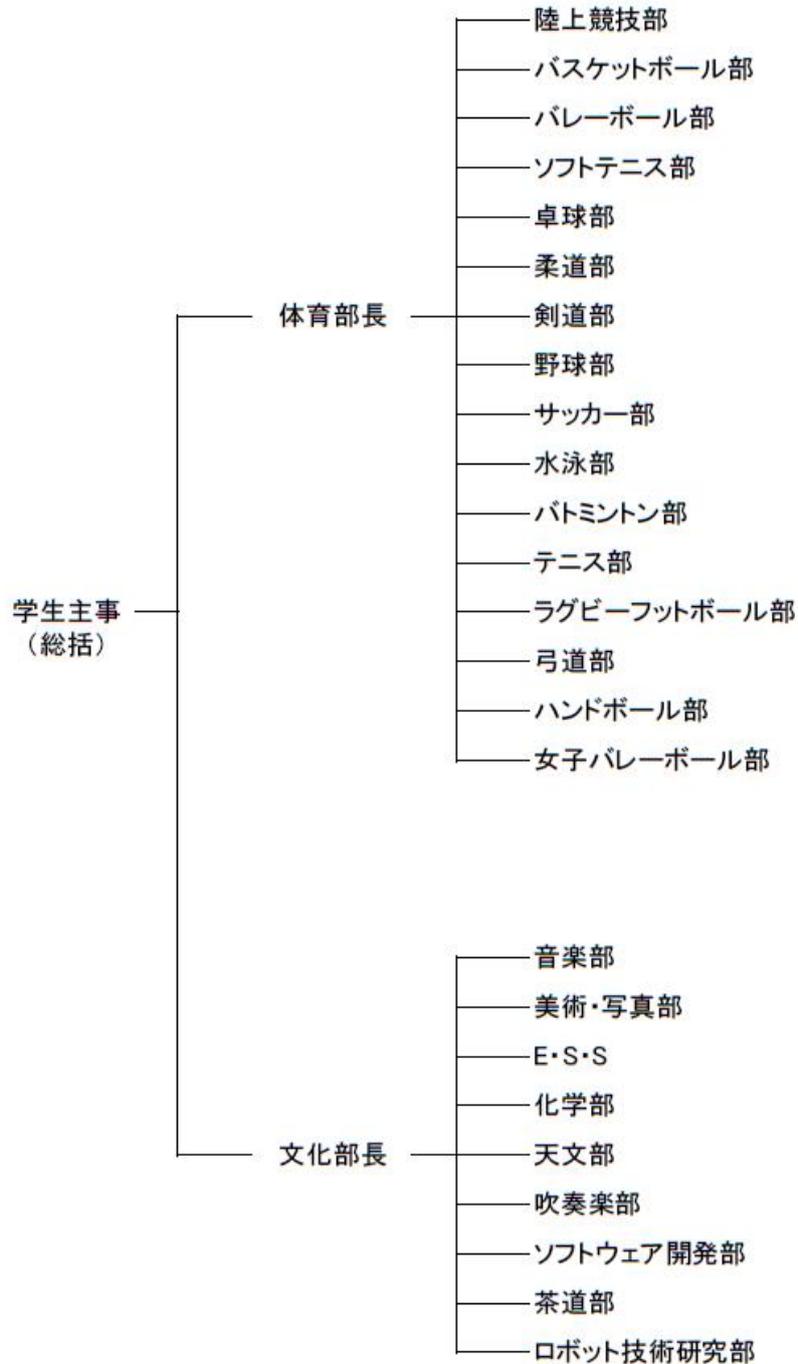
大会運営に関わる支援も行われている(資料7-1-⑤-7)。また、公式戦への参加については公欠として扱い(資料7-1-⑤-8)、参加にかかる費用は、後援会費からも一部支援している。さらに、大会等において優秀な成績を残した学生に対する表彰も行っている(資料7-1-⑤-9)。

課外活動の活動場所としては、構内に十分な広さと設備がある(資料7-1-⑤-10～11)。部活動指導における安全管理のために、外部講師を招いて、教職員と運動部員を対象とする講習会も行っている(資料7-1-⑤-12～13)。

学生会本部用に課外活動室(学生控え室)を確保している(資料7-1-⑤-14)。学生会担当の学生主事補は、定期的に学生会役員との打合会を開催し、学生会への指導、助言を行っている(資料7-1-⑤-15)。

クラブ組織図

平成25年度学生会・部関係指導組織図



(出典：学生課資料)

## クラブ活動を行う上での注意

## クラブ活動を行うに当たって

## 1. 活動の目標

- 一 心身両面の健全な発達をめざそう。
- 二 大会やコンテスト等の目標に向かって、たゆまない努力をしよう。
- 三 規律ある活動を通して、連帯感や協調の精神を高めよう。
- 四 集団の中の一個人である自覚を持ち、他を思いやる心、暖かい友情、豊かな感性を育てよう。
- 五 学業とクラブの両立、調和をはかり、仮にも学業不振に陥ることのないように心がけよう。

## 2. 安全の確保

- 一 安全なクラブ活動をするために、クラブ活動の目標をよく理解し、軽率な行動による事故は絶対に起こさぬよう心がける。
- 二 クラブごとに練習計画を立て、無理のない活動をする。
- 三 自分自身の身体状況、健康状況に注意し、自分の体力に適した活動をする。
- 四 定期的に健康診断を受けたり、身体測定をしたりして、疲労、病气など身体上の異常を早期に発見するように努める。
- 五 競技や練習の前には、準備運動・整理運動を十分に行う。
- 六 練習場等の施設や使用する器具・用具は、常に安全性を確かめ、よく整備しておく。
- 七 部長、キャプテン、マネージャー、上級生クラブ員は、技術面、精神面において下級生クラブ員の模範となるよう努力する。
- 八 まだ体力のついていないクラブ員には、それに適した活動をさせ、決して厳しさだけが先行することのないよう十分配慮する。
- 九 クラブ活動中、万一事故が起きたときは、顧問教員にすぐ連絡する。顧問教員不在のときは、学寮の宿直教員その他の教職員に連絡し、その指示に従う。

## 3. クラブ活動終了時間等

- 一 すべてのクラブとも、原則として18時30分までに終了する。
- 二 土曜・日曜・休日の活動時間は、クラブ員の健康状況、学習状況を考え顧問教員の許可を得て決める。

## 4. 合宿

- 一 合宿期間は6泊7日を限度とし、年2回以内とする。
- 二 合宿は、休業中に行う。
- 三 合宿中は、本校学生としての品位を保ち、良識ある行動をとる。また、日課表に従って、規律正しい生活をする。

専攻科学生は該当しません。

(出典：平成25年度 学生便覧，pp.108～109)

## 平成24年度 顧問会議議事録

日 時 平成25年3月6日(水) 14:10～14:25  
場 所 大会議室  
出席者 学生主事、佐藤(浩)、矢吹、竹村、保科、武市、阿部(秀)、宝賀、三村、阿部(達)、野々村、吉木、瀬川、五十嵐、渡部、清野、南、小野寺、田阪、本橋、窪田、佐藤(淳)、西山、本間、茨木、上松、戸嶋、加田、森谷、木村、今野  
記 録 学生係長

配付資料 1) 東北地区高専体育大会分散開催(案)  
2) 高専体育大会/地区担当校

## 議 事

## 1. 平成32年度以降おける東北地区高専体育大会の開催方式について

学生主事より、東北高専体育連盟理事校から東北地区高専体育大会の開催方式について、各高専から希望する開催方式の調査依頼があり、本校としての意見を取り纏める必要があるため各顧問の意見を伺いたい旨依頼があった。

次いで、体育主任よりこれまでの東北地区高専体育連盟競技・運営専門委員会における審議の経緯等の補足説明があった。また、東北地区高専体育大会分散開催(案)については、鶴岡市の体育施設・宿泊ホテルの受入数等を考慮し、体育主任と学生係で検討したものである旨説明があった。

なお、このABC案を検討するうえで考慮した点は、以下のとおりである。

- ・使用する体育施設が重ならないよう競技を分けた。
- ・屋内競技と屋外競技のバランスを考慮した。
- ・ロボコン東北地区担当校と東北地区高専体育大会主管校が重ならないようにした。
- ・仙台高専名取、広瀬が同年で主管校とならないようにした。

審議の結果、東北地区高専体育大会分散開催(案)について特に異論は無く、この案を本校の意見とすることが了承された。

(出典：学生課資料)

資料7-1-⑤-4

## 平成25年度 学生会顧問一覧

学 生 会 顧 問 教 員							
部	顧問教員	部	顧問教員	部	顧問教員	部	顧問教員
体育部長	本 間					文化部長	佐藤(秀)
陸上競技	竹 村	剣 道	渡 部	ラ グ ビ ー	本 間	吹 奏 楽	澤
〃	保 科	〃	清 野	〃	山 田	音 楽	佐藤(秀)
〃	矢 吹	〃	平 尾	〃	茨 木	天 文	神 田
バスケットボール	佐藤(司)	野 球	南	弓 道	戸 嶋	化 学	神 田
〃	武 市	〃	小 野 寺	〃	徳 永	美 術・写 真	大 河 内
〃	阿部(秀)	〃	田 阪	ハンドボール	田 加	E. S. S.	内 山
バレーボール	宝 賀	〃	金	〃	瀨 田	茶 道	内 山
〃	森 谷	〃	江 口	女子バレーボール	瀨 川	ロボッ技術研究	佐藤(義)
〃	三 村	サ ッ カ ー	主 濱	〃	西 山	〃	佐々木
ソフトテニス	阿部(達)	〃	比 留 間	〃		〃	安 齋
〃	野々村	〃	伊 藤	〃		〃	上 松
〃	當 摩	水 泳	本 橋	〃		〃	末 永
卓 球	五 十	〃	吉 木	〃		〃	増 山
〃	安 田	〃	今 野	〃		ソフトウェア開発	内 海
柔 道	田 中	バドミントン男女	窪 田	〃			
〃	木 村	〃	吉 住	〃			
		テ ニ ス	佐藤(淳)	〃			
		〃	大 西	〃			

(出典：学生課資料)

資料7-1-⑤-5

平成25年度 学外コーチ名簿

クラブコーチ名簿 (体育部)

氏 名	所 属	住 所	生年月日	指導クラブ
[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	バスケットボール部
				バレーボール部
				バレーボール部
				ソフトテニス部
				剣 道 部
				サ ッ カ ー 部
				水 泳 部
				弓 道 部
				女子バレーボール部

クラブコーチ名簿 (文化部)

氏 名	所 属	住 所	生年月日	指導クラブ
[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	吹 奏 楽 部

(出典：学生課資料)

非常勤教職員就業規則（抜粋）  
課外活動指導員について

（定義）

第2条 この規則における非常勤教職員とは、1週間の労働時間が30時間を超えない範囲内で定められている教職員（独立行政法人国立高等専門学校機構非常勤教職員の労働時間、休暇等に関する規則（機構規則第14号。以下「非常勤教職員労働時間等規則」という。）第13条の3により労働時間を定められた教職員を含む。）をいう。

2 非常勤教職員の職名及び対象職員は、次の各号に掲げるところによるものとする。ただし、これによりがたい特殊な事情のあるものについては、その都度理事長が定める。

- 一 事務補佐員 事務を補佐する職員
- 二 技術補佐員 技術に関する職務を補佐する職員
- 三 技能補佐員 技能に関する職務を補佐する職員
- 四 臨時用務員 労務作業に従事する職員
- 五 特命教授、特命准教授及び特命助教 次に掲げる職員
  - イ 学校における教育研究の充実及び活性化を図るために必要と認められる特定の業務に従事する職員
  - ロ 課外活動指導における学生の教育、特定の課外活動の技術的な指導及び各種大会

の校外引率業務に従事する職員

- ハ 学生寮における学生の教育、生活指導及び相談業務に従事する職員

平成25年度 課外活動指導員一覧

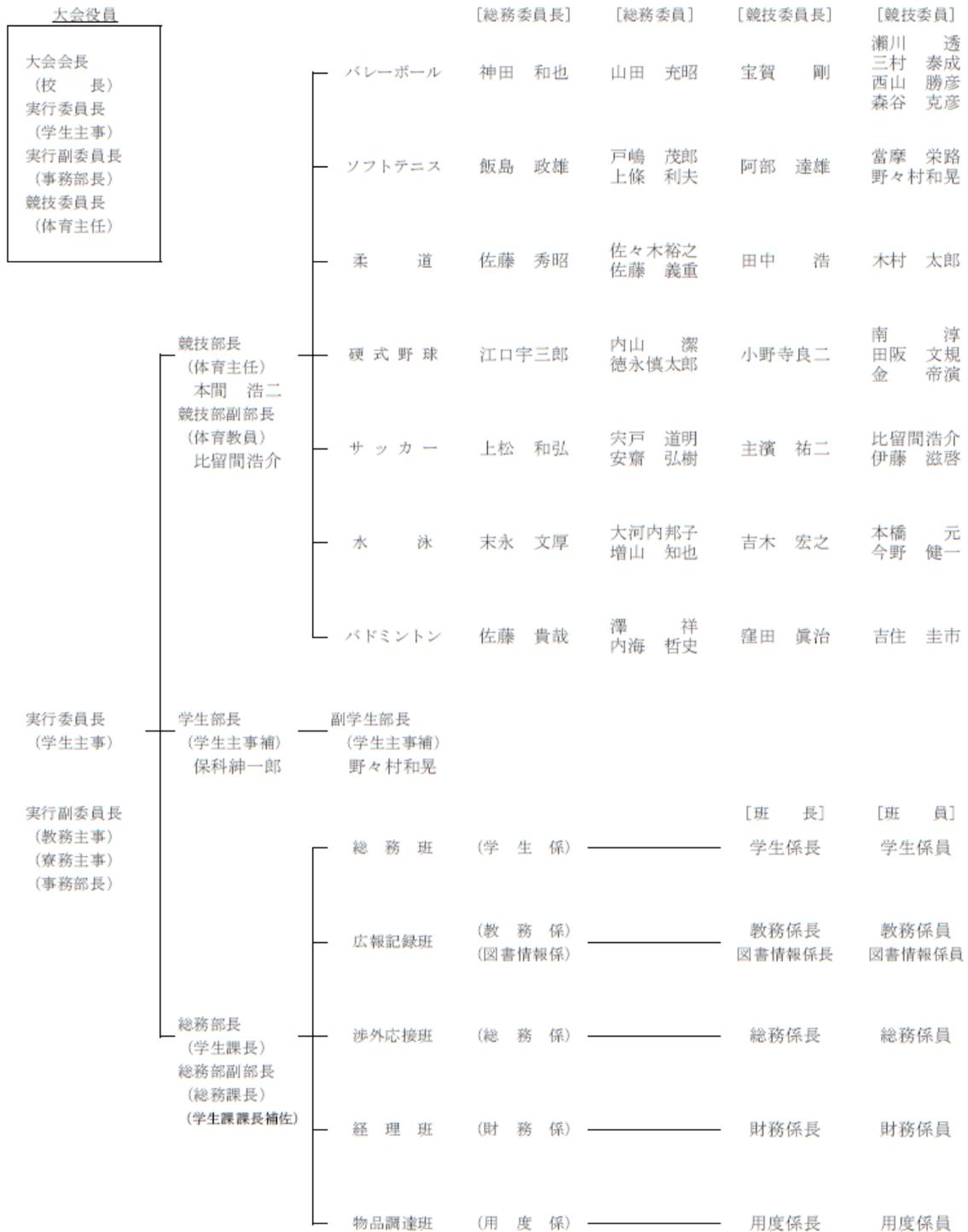
平成25年度 課外活動指導に係る非常勤職員採用一覧

氏名	職名	担当クラブ名	雇用期間	職務内容	勤務日
	特命教授	柔道部	平成25年4月～平成26年3月	柔道部における技術的な指導業務・校外引率業務	平日夕方の練習時間・土日の大会開催日をベースにした勤務カレンダーに基づく勤務日
	課外活動指導員	ラグビー部	平成25年4月～平成26年3月	ラグビー部における技術的な指導業務・校外引率業務	平日夕方の練習時間・土日の大会開催日をベースにした勤務カレンダーに基づく勤務日

（出典：総務課資料）

資料 7 - 1 - ⑤ - 7

第 5 0 回東北地区高等専門学校体育大会 校内実行委員会組織図



(出典：学生課資料)

資料 7-1-⑤-8

## 大会参加に関わる公欠アナウンス例

**Subject:** 県高校総体参加による公欠(剣道部)  
**From:** 清野恵一 <seino@tsuruoka-nct.ac.jp>  
**Date:** 2013/06/05 12:20  
**To:** 全教員 <kyouin@tsuruoka-nct.ac.jp>

授業担当ならびに担任の先生各位

剣道部顧問の清野です。  
 県高校総体に出場するため下記の日時、学生 7 名が  
 公欠となります。 よろしくお願ひします。

## 記

日時 6月7日(金)終日

公欠学生 3M  
 3I  
 3B  
 2M  
 2I  
 2I  
 1B



以上

--  
 \*\*\*\*\*  
 鶴岡工業高等専門学校 物質工学科  
 清野恵一  
 〒997-8511 山形県鶴岡市井岡字沢田104  
 Tel/Fax:0235-25-9120  
 Email:[seino@tsuruoka-nct.ac.jp](mailto:seino@tsuruoka-nct.ac.jp)  
 \*\*\*\*\*

(出典：学生課資料)

## 学生の表彰に関する内規

## 鶴岡工業高等専門学校学生の表彰に関する内規

施 行 昭和 57 年 2 月 1 日  
 最終改正 平成 16 年 4 月 1 日

(趣旨)

第 1 条 鶴岡工業高等専門学校（以下「本校」という。）の学生の表彰については、別に定めるものの他この内規の定めるところによる。

(表彰の種類)

第 2 条 表彰の種類は、次の各号に掲げるとおりとする。

- 一 優秀賞
- 二 皆勤賞
- 三 精勤賞
- 四 課外体育活動功労賞
- 五 課外文化・学術活動功労賞
- 六 学生役員活動功労賞
- 七 社会活動功労賞
- 八 平川賞
- 九 努力賞
- 十 精励賞
- 十一 功績賞
- 十二 善行賞

2 表彰は、重複して授与することができる。  
 3 第 1 項に掲げる表彰の基準は別表に定める。

(被表彰者の推薦等)

第 3 条 学科長、クラス担任、クラブ顧問教員等（以下「推薦者等」という。）は前条第 1 項に掲げる表彰に該当する学生がいる場合には、別に定める時期までに推薦書（様式第 1）により校長に推薦することができる。ただし、表彰される日前の 1 年間において訓告以上の処分を受けた学生を推薦することはできない。

(被表彰者の選考)

第 4 条 前条の規定により推薦を受けた校長は、学生委員会に審査を委ねるものとする。

- 2 学生委員会委員長は、次に掲げる者で組織する表彰学生選考委員会（以下「委員会」という。）を設置して選考するものとする。
- 一 学生主事(委員長)
  - 二 教務主事補、学生主事補及び寮務主事補から各 1 名
  - 三 学生課長

(表彰の方法)

第 5 条 表彰は、表彰状を授与して行う。  
 2 前項の表彰状にあわせて、記念品を授与することができる。

(表彰の時期)

第 6 条 表彰の時期は、別表に定める。

(表彰に関する事務)

第 7 条 表彰に関する事務は、学生課が行う。

(雑則)

第 8 条 この内規に定めるもののほか、表彰の実施に必要な事項は別に定める。

附 則

この改正規程は、昭和 57 年 2 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、昭和 59 年 1 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 14 年 1 月 28 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

資料7-1-⑤-9 続き

## 学生の表彰事例

## 表彰内規による表彰候補者

種別	クラス	氏名	受賞内容	表彰年月日	表彰集会名
功績賞	3B		東北地区高専体育大会 陸上競技 男子円盤投 優勝	24.9.3	始業行事
	5I		東北地区高専体育大会 陸上競技 女子走高跳・走幅跳 優勝		
	5B		東北地区高専体育大会 陸上競技 女子100mH 優勝		
	3I		東北地区高専体育大会 陸上競技 女子800m 3位		
	4B		全国高専体育大会 陸上競技 女子砲丸投 2位		
	5M		全国高専体育大会 バレーボール競技 3位		
	4M		全国高専体育大会 バレーボール競技 3位		
	4M		全国高専体育大会 バレーボール競技 3位		
	3I		全国高専体育大会 バレーボール競技 3位		
	3B		全国高専体育大会 バレーボール競技 3位		
	3B		全国高専体育大会 バレーボール競技 3位		
	3B		全国高専体育大会 バレーボール競技 3位		
	2E		全国高専体育大会 バレーボール競技 3位		
	2E		全国高専体育大会 バレーボール競技 3位		
	2E		全国高専体育大会 バレーボール競技 3位		
	2E		全国高専体育大会 バレーボール競技 3位		
	2B		全国高専体育大会 バレーボール競技 3位		
	2B		全国高専体育大会 バレーボール競技 3位		
	1M		全国高専体育大会 バレーボール競技 3位		
	1I		全国高専体育大会 バレーボール競技 3位		
	5I		全国高専体育大会 水泳競技 女子200mリレー 3位		
	4I		全国高専体育大会 水泳競技 女子200mリレー 3位		
	4I		全国高専体育大会 水泳競技 女子200mリレー 3位		
	4B		全国高専体育大会 水泳競技 女子200mリレー 3位		
	5B		東北地区高専体育大会 バドミントン競技 男子ダブルス 優勝		
	5B		東北地区高専体育大会 バドミントン競技 男子ダブルス 優勝		
	5I		東北地区高専体育大会 バレーボール競技 女子 2位		
	4B		東北地区高専体育大会 バレーボール競技 女子 2位		
	4B		東北地区高専体育大会 バレーボール競技 女子 2位		
	3I		東北地区高専体育大会 バレーボール競技 女子 2位		
3B		東北地区高専体育大会 バレーボール競技 女子 2位			
2I		東北地区高専体育大会 バレーボール競技 女子 2位			
2B		東北地区高専体育大会 バレーボール競技 女子 2位			

(出典：学生課資料)